

インパクトコンソーシアム 第3回データ・指標分科会

明治安田のサステナビリティ経営における具体的取組み

2025年12月25日

運用企画部 責任投資推進担当

青木 圭介

明治安田フィロソフィーにおけるサステナビリティの位置づけ

- 明治安田フィロソフィーにおける「経営理念」「企業ビジョン」に「**持続可能で希望に満ちた豊かな社会づくりへの貢献**」を掲げており、これをふまえ、グループサステナビリティ方針（ステートメント）にもこれを明記

経営理念

「私たちは何者か」

〔 当社の存在意義・使命 〕

確かな安心を、いつまでも

私たちは創業以来、相互扶助の精神のもと、生命保険事業のパイオニアとして、お客さまそして地域社会を支えてきました。
(中略)

「確かな安心を、いつまでも」

私たちは、この言葉を胸に、これからもお客さまを大切にすることに徹し、いつまでも変わらない安心をお届けします。

あわせて、一人ひとりの健康づくり、地域社会の発展を応援し、相互扶助の輪を広げることを通じ、**持続可能で希望に満ちた豊かな社会づくりに貢献**します。

企業ビジョン

「私たちは何をめざすのか」

〔 当社が長期的にめざす姿 〕

信頼を得て選ばれ続ける、 人に一番やさしい生命保険会社

お客さまとの絆

地域社会との絆

働く仲間との絆

未来世代
との絆

未来の世代を想い、**持続可能で希望に満ちた豊かな社会づくりに貢献**する

明治安田バリュー

「私たちは何を大切に
していくのか」

〔 役員・従業員一人ひとりが
大切にすべき価値観 〕

お客さま志向・倫理観

一、私たちは、お客さまを大切にし、高い倫理観のもと行動します。

挑戦・創造

一、私たちは、果敢に挑戦し、新しい価値を創造します。

協働・成長

一、私たちは、働く仲間と互いに助け合い、共に成長します。

グループサステナビリティ方針 (抜粋)

当社およびグループ会社は、**社会を基盤として活動する企業としての責任**を果たし、「お客さま」「地域社会」「働く仲間」をはじめとする**ステークホルダーとの共通価値を創造**するとともに、**その価値を「未来世代」に引き継ぐ**ことを通じて、**持続可能で希望に満ちた豊かな社会づくりに貢献し、企業としての安定的・持続的な発展**をめざします。

- 当社はSDGsの目標から導き出される社会課題のうち、当社のステークホルダーへの影響度と事業との関連性の観点から、**8項目を「優先課題（マテリアリティ）」として特定**。その解決への貢献を通じ、**社会的価値と経済的価値の双方の向上**をめざしている

2「大」プロジェクト等を通じて注力

健康寿命の延伸（★）



地方創生の推進（★）



事業者・機関投資家双方の立場から社会的価値を創出

環境保全・気候変動
への対応（★）



機関投資家としての責任投資
を通じた持続可能な社会づくり



等

こどもの健全育成



DE&Iの推進（★）



金融サービスへの
平等なアクセス確保



人権の尊重（★）



★：グループベースで取り組む優先課題

事業者としての優先課題への取組み

- 「みんなの健活プロジェクト」では「**“けんしん”応援型**」の健康増進保険をご提供し、より多くのお客さまに**定期的に**健康診断やがん検診等を受けていただくとともに、**未来のリスク予測をお届け**することで、**疾病「予防」に向けた前向きな取組みを後押し**



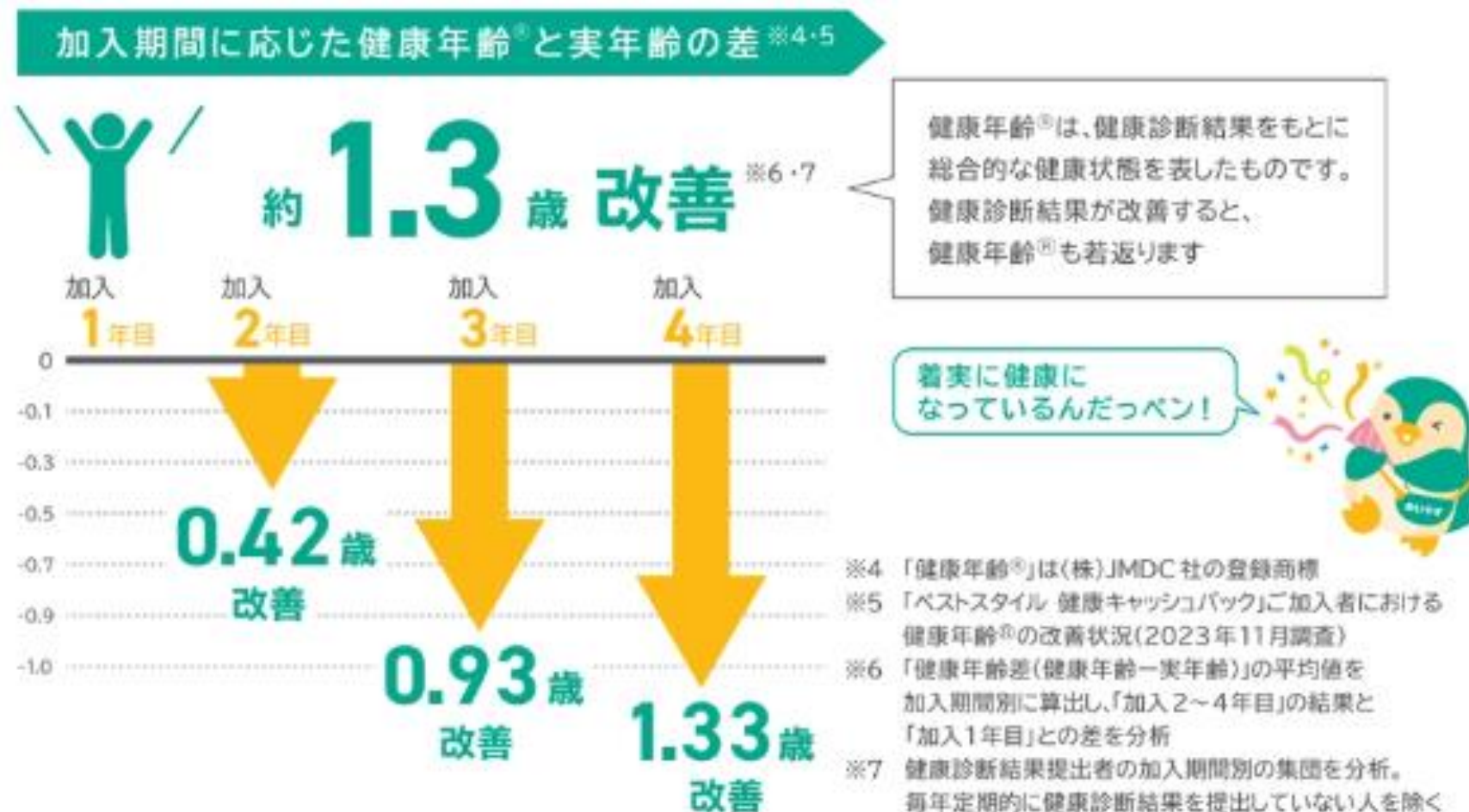
- 「“けんしん”と予防」の健康改善サイクルの継続を通じて健康状態の改善に貢献

健康診断結果が改善した加入者の割合※3



※3「ベストスタイル 健康キャッシュバック」ご加入者で「健康サポート・キャッシュバック」のお支払いが2回以上完了している方のうち、直近の健康診断結果の数値が、最も悪かったときの数値から一定程度以上改善した方の割合(2023年11月調査)
(BMI値は30kg/m²以上の方が1kg/m²以上低下。血糖値は100mg/dl以上の方が10mg/dl以上低下。
γ-GTP値は50U/L以上の方が10U/L以上低下。中性脂肪値は150mg/dl以上の方が10mg/dl以上低下。
血圧(収縮期)は130mmHg以上の方が10mmHg以上低下)

■「“けんしん”と予防」の健康改善サイクルの継続を通じて健康状態の改善に貢献



- お客さまにご提出いただいた健診結果と、給付金などのご請求履歴などからわかる既往歴から、お一人おひとりの総合的な健康状態を精緻に分析し「健活年齢」を算出
- 「健活年齢」とは、**長年にわたり蓄積してきたベストスタイルご加入のお客さま（約130万人分）の医療ビッグデータを活用して独自に開発した総合的な健康状態を年齢で表す指標**

疾病リスクの未来予測結果や、疾病予防や健康増進に
役立つ情報・サービスをご提供しています

みんなの健活サービス

MY健活レポート

健活年齢 健活年齢

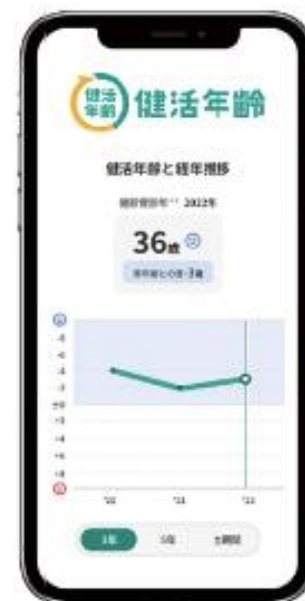
2025年10月
特許取得

疾病予防や健康増進、早期発見等にお役立て
いただける各種サービスをご用意しています

ご提出いただいた健康診断結果をもとに、
約780万人分の医療ビッグデータで分析した、
疾病リスクの未来予測結果をご提供しています

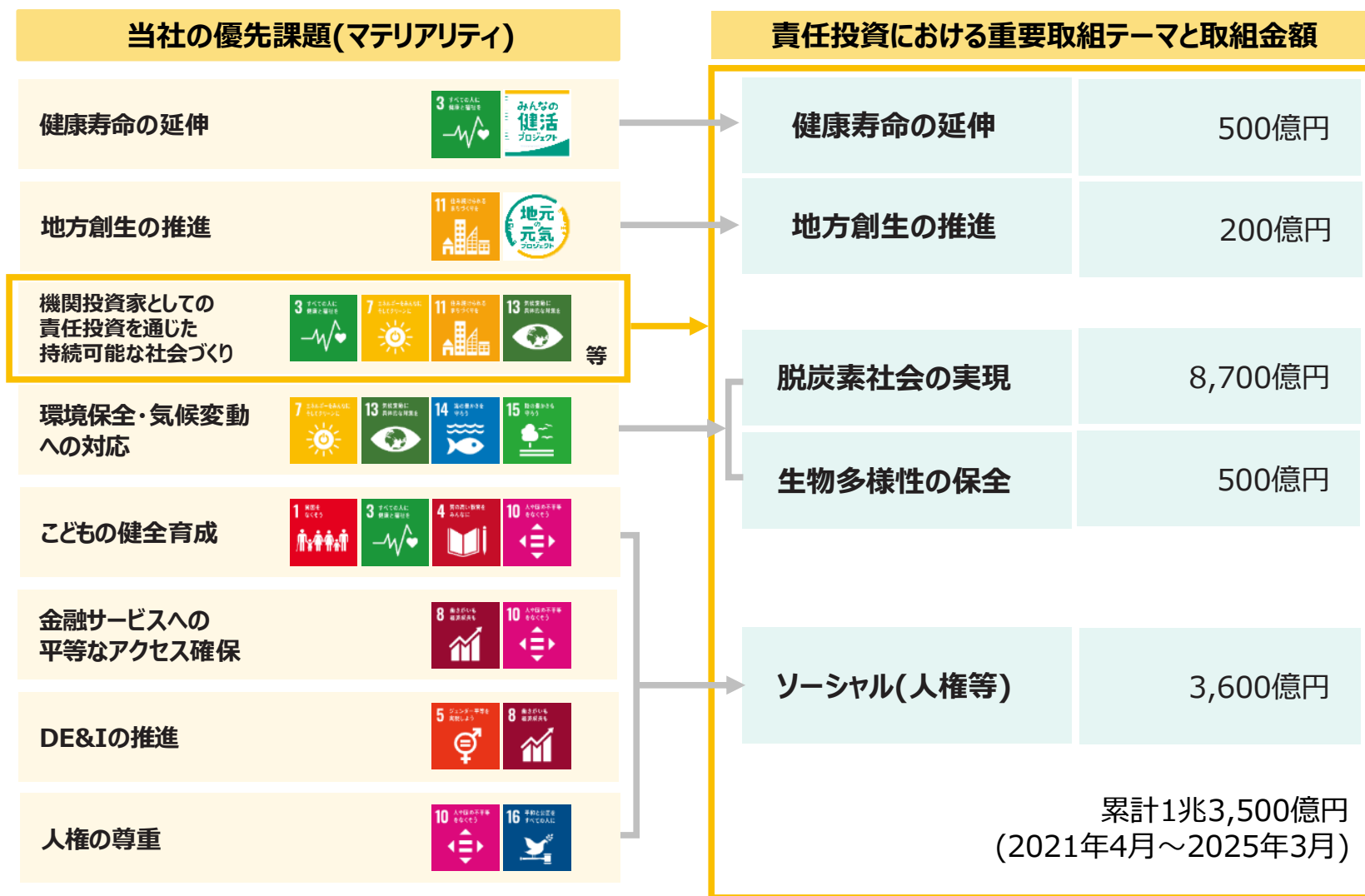
当社に蓄積された医療ビッグデータをもとに
独自予測モデルを開発。これを活用して、
健康状態を精緻に分析した「健活年齢」を算出し、
MY健活レポートでご提供しています

MY健活レポート(イメージ)



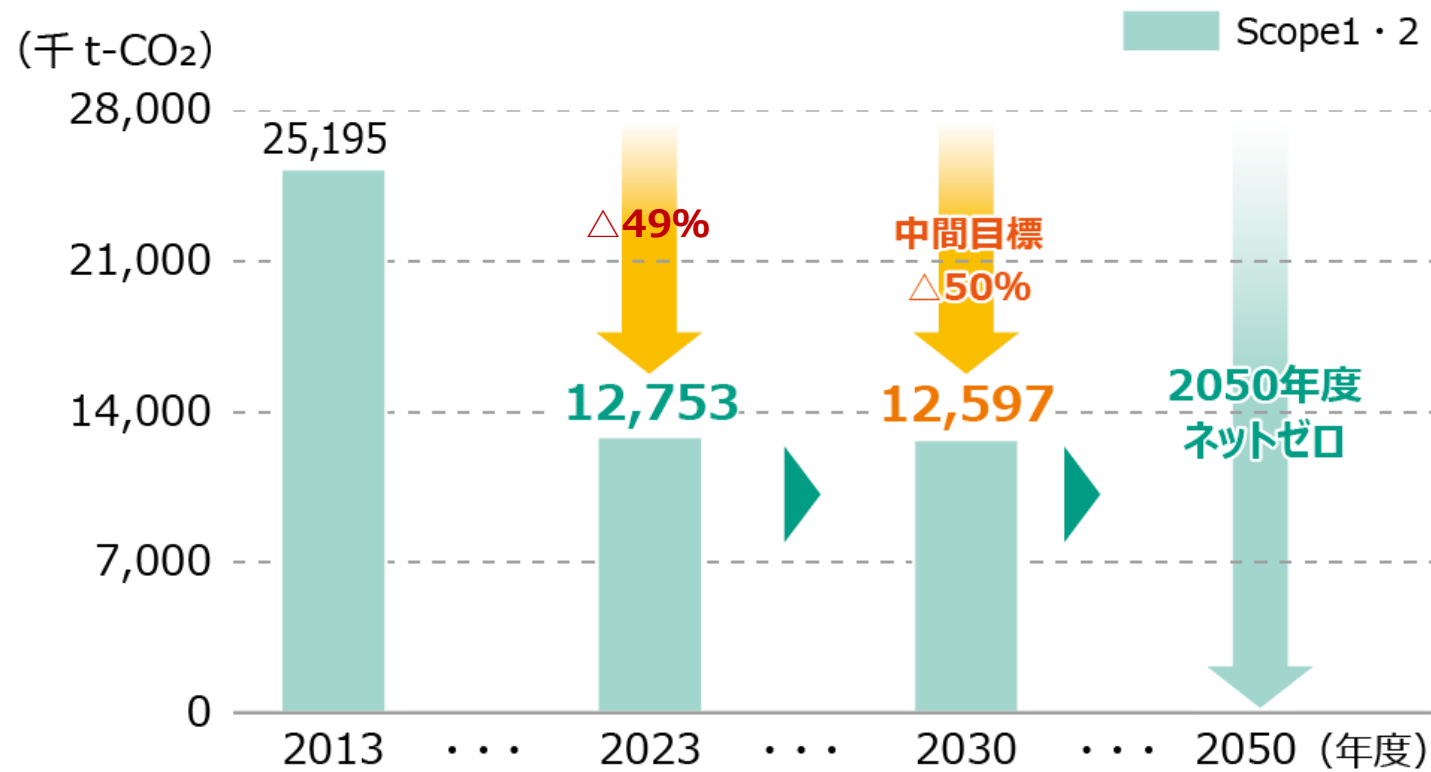
機関投資家としての責任投資の取組み

- 2024年度に「優先課題(マテリアリティ)」を見直し、「機関投資家としての責任投資を通じた持続可能な社会づくり」を追加
- **責任投資における5つの重要取組テーマを設定し、投融資とエンゲージメントを通じたインパクト創出に取組み**



■ 2023年度の投融資ポートフォリオにおけるCO2総排出量は△49%まで削減しており、2030年度の中間目標に向けて順調に進捗

投融資ポートフォリオのCO₂総排出量(注)



(注)対象は国内上場企業の株式・社債・融資

- トランジション・ファイナンスは、脱炭素社会の実現に向けた移行戦略に則り、企業の着実なCO2排出削減の取組みを支援
- 当社は、社会全体の脱炭素化に向けて、収益性の確保を前提にトランジション・ファイナンスを積極的に推進
- 当社ポートフォリオのCO2排出量の削減ペースが一時的に鈍化する可能性があるが、2050年ネットゼロの目標は不変

当社の基本的な考え方

基本スタンス	・ <u>収益性の確保を前提として、積極的にトランジション・ファイナンスを推進</u>
対象業種	・ 原則として、国内の多排出セクター（電力・鉄鋼・化学）（注1）
対象資産	・ 日本政府または地方公共団体の発行する債券、国内企業向けの融資・社債、国内プロジェクト・ファイナンス、国内ノンリコースローン
判断基準	・ 原則として第三者意見付きの案件またはICMAおよび国の定める要件を満たす案件（注2）
投融資 ポートフォリオの CO2排出量	・ <u>当社ポートフォリオのCO2排出量の削減ペースが一時的に鈍化する可能性があることを許容するものの、2050年ネットゼロの目標は不変</u>

（注1）経済産業省の技術ロードマップ作成業種

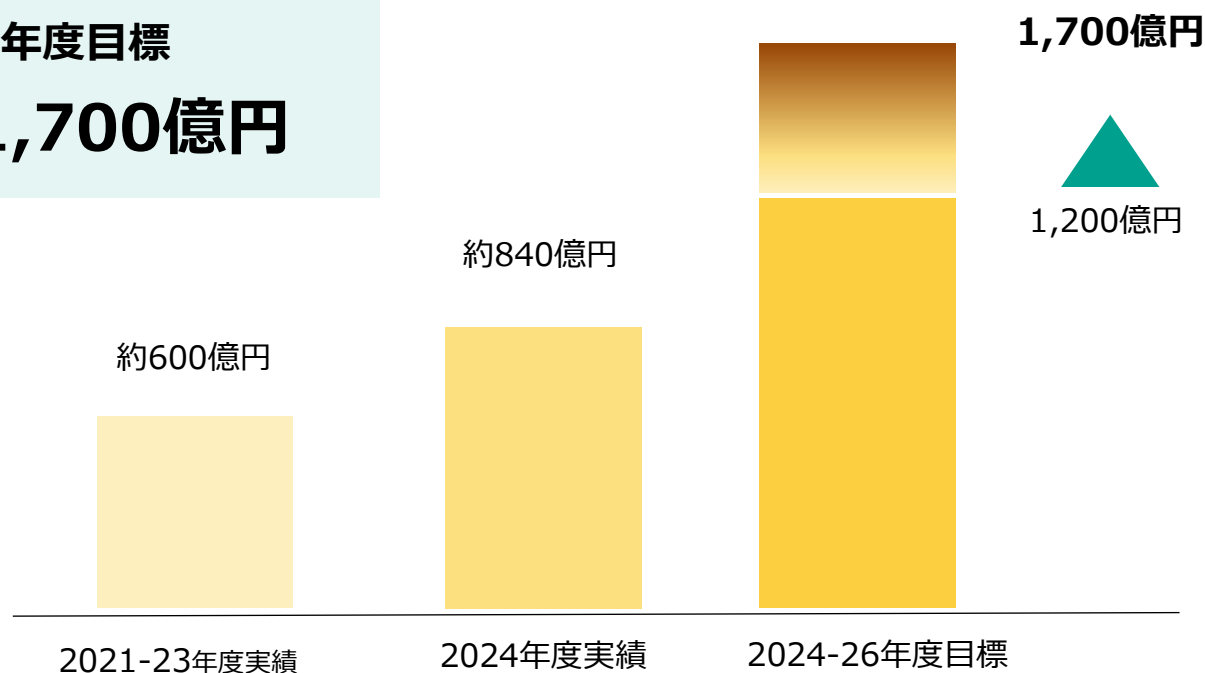
（注2）原則としてICMA「クライメート・トランジション・ファイナンス・ハンドブック」および経済産業省「クライメート・トランジション・ファイナンスに関する基本指針」に沿って判断

- インパクトファイナンスは、「社会や環境に対してポジティブなインパクトをもたらすことを目的とする投融資」で、ESG投融資の発展形と位置づけ、2021年度から取組みを開始
- 現中計（2024～2026年度）目標金額の1,700億円に対して、2024年度実績は約840億円と順調に進捗

インパクトファイナンスの目標と実績

インパクトファイナンスについては、2024年度の実績が順調であったことから、**現中期経営計画(2024-2026年度)の目標金額を1,200億円から1,700億円に引き上げました。**

2024～2026年度目標
1,200億円 → 1,700億円



案件名	投資時期	投資額	該当する重要取組テーマ
東京ウェルネスインパクトファンド	2023年3月	10億円	健康寿命の延伸

ウェルネス領域(医療・介護・健康・社会/経済)における課題解決をはかるインパクト志向のスタートアップ企業に投資し、「健康寿命の延伸」におけるインパクト創出をめざします。

<投資先企業と設定しているKPIの例(抜粋)>

企業	アイリス(株)：病院や医師向けの人工知能技術(AI)関連医療機器を開発するスタートアップ企業
インパクト KPI	インフルエンザAI診断カメラ「nodoca」の『導入件数』：47都道府県の1,000施設以上の医療機関への導入完了
	インフルエンザAI診断カメラ「nodoca」の『利用回数』：検査を受けた累計患者が10万人に到達

(出所)[東京ウェルネスインパクトファンド2024 インパクトレポート](#)

案件名	投資時期	投資額	該当する重要取組テーマ
EEI 5号イノベーション&インパクト投資事業有限責任組合	2023年12月	10億円	脱炭素

Energy Transition、Mobility & Transportation および Smart Society の 3つの投資領域を設定し、各領域における社会課題の解決に寄与するスタートアップへの出資を通じて、脱炭素を中心とする社会課題解決に貢献し、社会的インパクトの創出に努めます。

<設定しているKPIの例(ファンドレベル、抜粋)>

KPI	実績(2023-2024年)	KPI	実績(2023-2024年)
CO2排出削減量	5,453 (t-CO2)	フードロス削減量	12,414 (t)
省エネ量	98.2 (GWh)	リサイクル資源量	159,468 (t)

案件名	投資時期	投資額	該当する重要取組テーマ
明治安田ホール福岡	2023年8月	10億円	脱炭素、健康寿命の延伸

「明治安田ヴィレッジ」として2023年8月に開業した「明治安田ホール福岡」への投資を、国連環境計画・金融イニシアティブ (UNEP FI)が提唱する「ポジティブ・インパクト不動産投資」に選定しています。

本ポジティブ・インパクト不動産投資の概要

- 面積約240㎡、シアター形式240席、スクール形式120席を収容するホールを新設
- 「こころの健康」や「からだの健康」に関するイベントを定期的に開催し、地域住民の健康への意識向上や健診受診率の引上げを通じて、健康寿命の延伸を後押し
- ホールの電力消費量の100%について地産地消型の再生可能エネルギーを導入

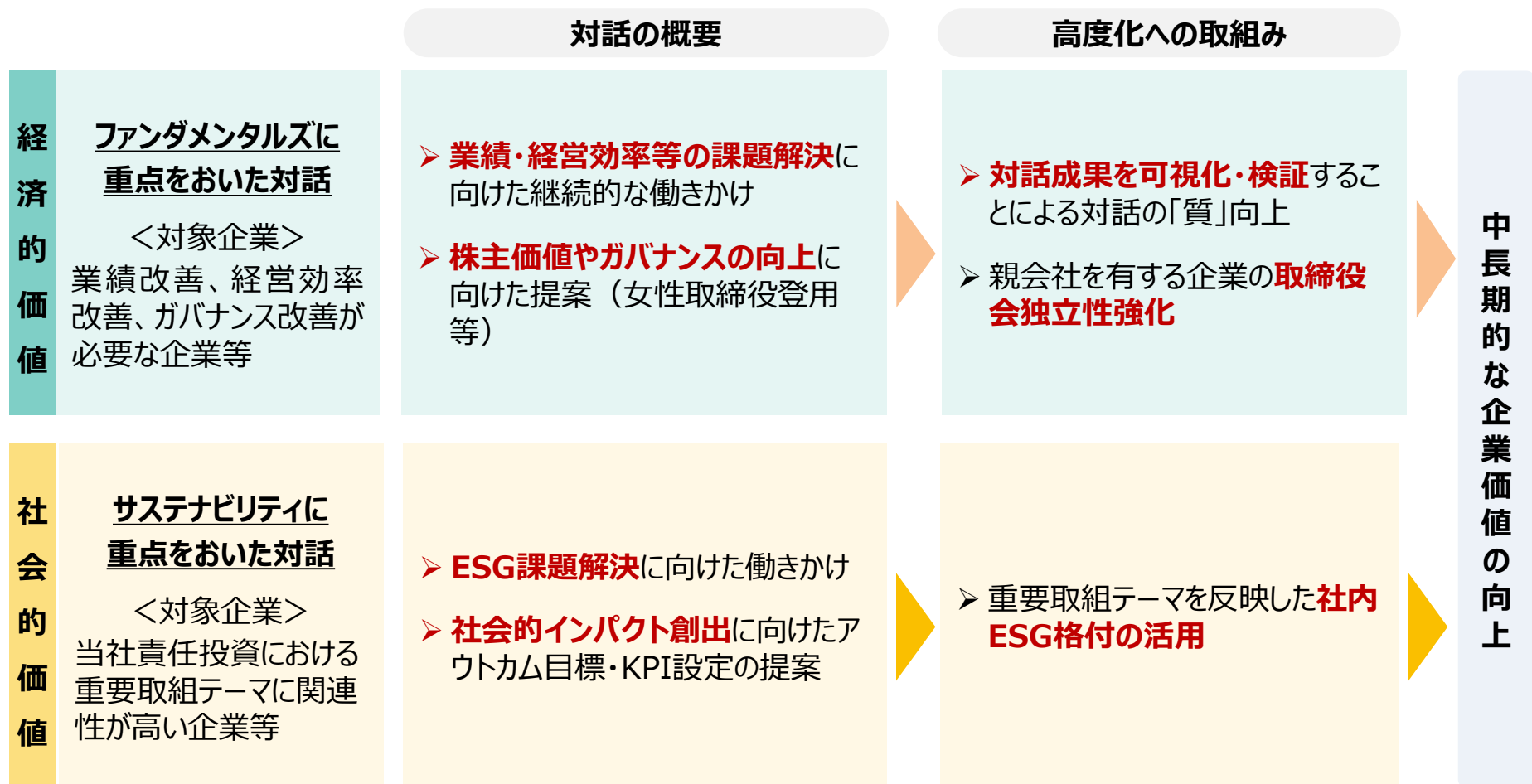
<設定しているKPI> (第三者意見取得済み)

ポジティブ・ コアインパクト	健康寿命の延伸		[アウトカム指標] ・健康づくりに取り組んでいる人の割合 ・特定健診受診率	- (2024年度のアウトカム指標未公表)
ネガティブ・ コアインパクト	CO ₂ の排出	 	[モニタリング指標] ・エネルギー消費量 ・CO ₂ 排出量 ・再生可能エネルギー比率	[2024年度実績] ・2,516,754kWh ・0t-CO ₂ e ・100%

本取組みでは、CSRデザイン環境投資顧問株式会社より、ポジティブ・インパクト不動産投資フレームワーク(注1)等との整合性や、特定したインパクトおよびその評価指標の妥当性等について、第三者意見を取得しています(注2)。

(注1)投資家がインパクトに基づいた投資を実践するために、意思決定の指針となるよう、UNEP FI不動産ワーキンググループによって策定された行動指針
(注2)詳細は[CSRデザイン環境投資顧問株式会社のウェブサイト](#)参照

- ・ 投融資先企業の持続的成長を促すため、中長期的な視点から、投融資先企業との「建設的な対話」を通じて、**課題改善やインパクト創出に向けた取組みを提案**
- ・ 業績・経営効率等、財務面の課題解決に向けた「**ファンダメンタルズに重点をおいた対話**」に加え、社会的インパクトの創出につながる「**サステナビリティに重点をおいた対話**」を実施



- 当社では、2021年度から非財務情報に特化した「サステナビリティに重点をおいた対話」を開始
- 投融資ポートフォリオのCO2排出削減に向けて、CO2削減に受けた取り組みを働きかけ

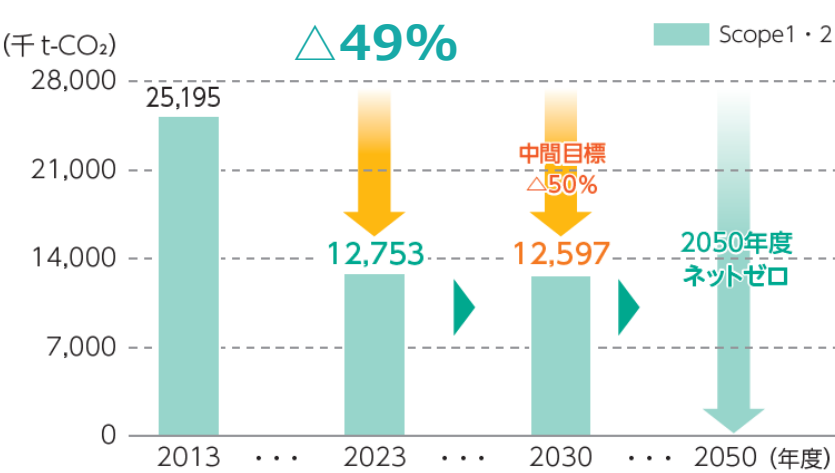
A社（非鉄金属）



<対話により改善した企業の割合>

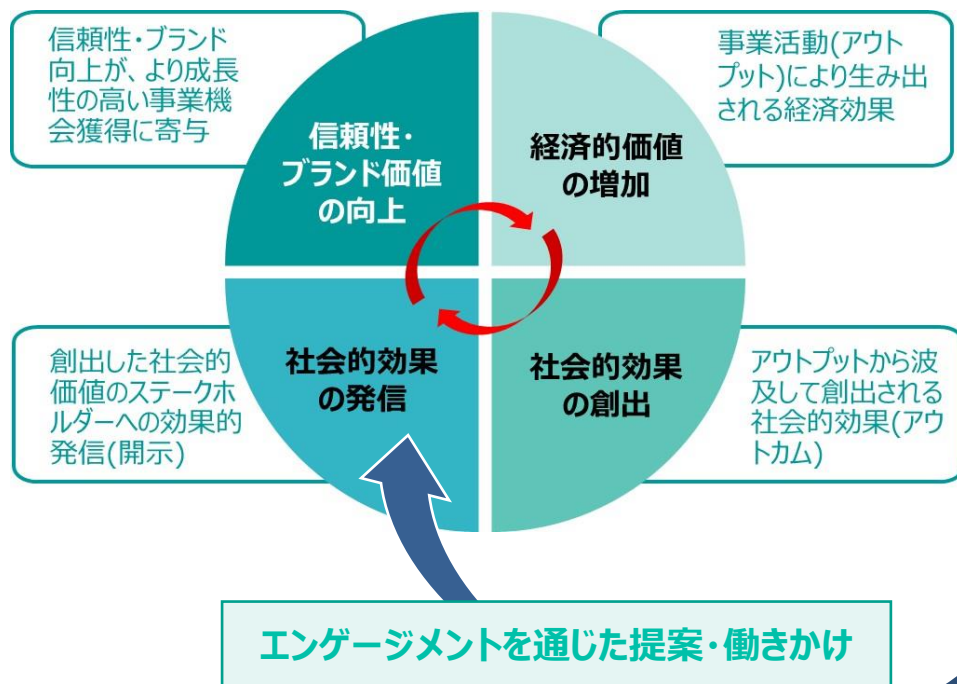
項目	割合
総量ベースのCO2削減目標の設定	100%
カーボンニュートラルに向けたロードマップ作成	100%
TCFDの気候変動が財務へ及ぼす影響についての開示充実	76%
2030年度CO2削減目標の引き上げ	33%

<投融資ポートフォリオのCO2総排出量>



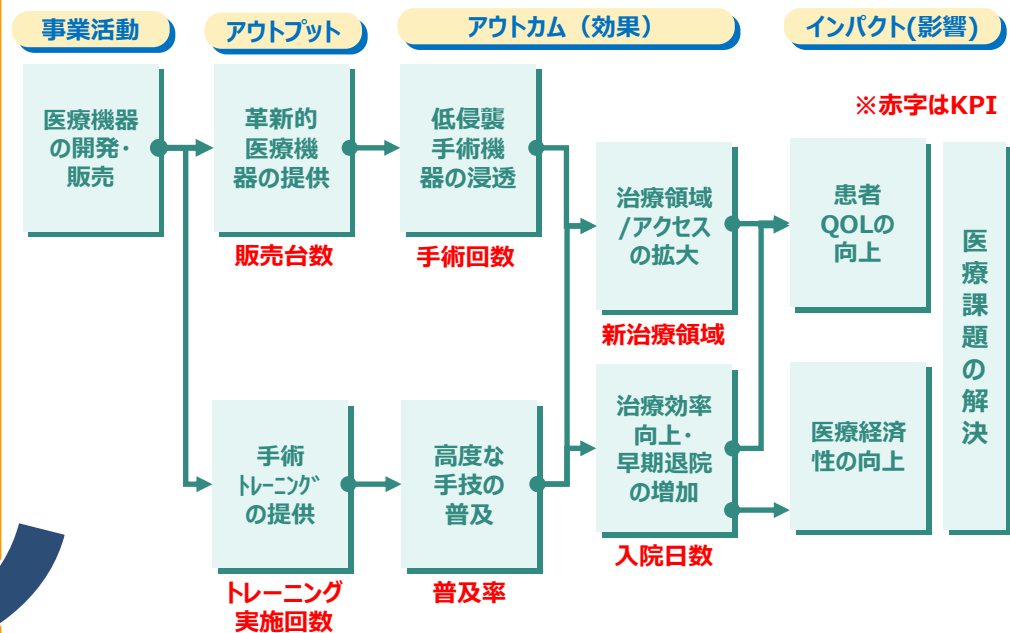
- 企業の事業活動が創出する社会的価値の効果的な情報発信が、中長期的に社会的価値と経済的価値の好循環を生み出すとの前提で、主に、「**健康寿命の延伸**」と「**地方創生の推進**」をテーマに、**ロジックモデルを活用した社会的効果（アウトカム）の定量的開示を提案**し、企業と建設的な意見交換を実施

社会的価値と経済的価値の好循環



















ロジックモデルを活用した提案型対話

<ロジックモデルのイメージ図（医療機器メーカー）>



- 2024年度時点における当社責任投資の取組みを通じ創出された社会的インパクトを開示
- テーマ債の発行体やファンドの委託運用会社が発行するインパクトレポート等のデータをもとに、**投融资金額に比例した当社
帰属分のインパクトを算出**

重要取組テーマ	アウトカム		インパクト
脱炭素社会 の実現	 CO ₂ 排出削減寄与量	約 655 万t	気候変動の緩和
	 再生可能エネルギー発電量	約 147 万MWh	
	 CO ₂ 削減貢献量	約 57 万t	
	 カーボンクレジット創出量	約 199 t	
生物多様性の保全	 廃水・汚水処理量	約 4 億m ³ /年	生態系の保護
	 陸域・水域の保全	約 5,786 ha	
	 リサイクル資源量	約 5,316 t	
	 フードロス削減量	約 414 t	
ソーシャル	ソーシャルボンド投資を通じた総受益者	約 533 万人	社会的公正の実現 社会基盤の向上
	 女性への教育・就労機会等の支援	約 116 万人	
	 衛生環境の改善	約 89 万人	
	 教育機会の改善	約 78 万人	
	 保健・フードプログラムの提供	約 76 万人	
	 社会的セーフティネットの提供	約 43 万人	
健康寿命の延伸	 スポーツ施設の増改築	約 11 ha	QOLの向上
	 運動の機会・質が向上した受益者数	約 14 万人	
	 ヘルスケアサービスの最終受益者数	約 12 万人	